

「百間川河口水門予備ゲート脱落原因調査委員会」

設立趣意書

旭川の放水路である百間川は、承応3年（1654）の大洪水を契機に、岡山城下を守るため岡山藩の政治顧問熊沢蕃山が考案し、郡代津田永忠が設計・施工したものです。この工事は貞享3年（1686）に完成したといわれ、その後、幾多の洪水から岡山城下を守って来ました。

旭川および百間川を抱える岡山平野は、近畿地方と九州地方を結ぶ東西軸と日本海と太平洋をつなぐ南北軸が交差する交通の要衝であり、中国・四国地方における産業・政治・経済・文化の拠点となっていることから、この岡山平野を洪水の危機から守る百間川の役割は大きく、地域の安全・安心のため、現在、河口水門の増築工事を行っています。

しかしながら、平成21年11月5日、河口水門の維持管理のための整備工事中に、予備ゲートが脱落し海水が逆流する事故が発生しました。そのため、予備ゲートの脱落原因の調査を行うとともに、予備ゲートの復旧方法の検討や事故の再発防止、今後の管理・点検方法の検討などを行い、河口水門の安全に万全を期する必要があります。

よって、河川工学や河川構造物を専門とする学識経験者及び研究機関等からなる「百間川河口水門予備ゲート脱落原因調査委員会」を設立するものがあります。